

西南学院早緑子供の園
西南学院舞鶴幼稚園
西南学院小学校
西南学院中学校・高等学校
西南学院大学

2024 年度
学校法人 西南学院
事業計画書

 西南学院

建学の精神

“Seinan, Be True to Christ”

西南よ、キリストに忠実なれ

西南学院は1916年、米国南部バプテスト派の宣教師C. K. ドージャーによって創立されました。創立者の遺訓“Seinan, Be True to Christ”(西南よ、キリストに忠実なれ)は、建学の精神として受け継がれ、現在もキリスト教を基盤とした独自の教育を実践しながら、キリスト教的人間観、世界観に立ち、奉仕の精神をもって社会に貢献する人を送り続けています。

西南学院の使命

学校法人西南学院は、「キリストに忠実なれ」の建学の精神に基づいて、真理の探求および優れた人格の形成に励み、地域社会および国際社会に奉仕する創造的な人を育てることを使命とする。

Mission Statement
of
Seinan Gakuin Educational Foundation

Seinan Gakuin, an educational institution endeavoring to be true to Christ in the pursuit of truth in academic affairs and excellence in character development, strives to equip and nurture students to serve as creative and constructive leaders in local communities and in an expanding global society.

目次

はじめに	1
I. 学校法人西南学院事業計画.....	3
II. 西南学院早緑子供の園事業計画.....	8
III. 西南学院舞鶴幼稚園事業計画.....	11
IV. 西南学院小学校事業計画.....	13
V. 西南学院中学校・高等学校事業計画	16
VI. 西南学院大学事業計画	22

はじめに

1916年、福岡市大名町にて教職員9人、生徒104人からスタートした「私立西南学院」が、現在の学校法人西南学院(以下、「学院」という。)の母体である。

1921年には旧専門学校令による高等学部を開設し、1940年、西南保姆学院を開設。第二次世界大戦を経て1947年に中学校、1948年に高等学校を開設、1949年の大学設置へと繋がる。そして、1950年には早緑子供の園(保育所)と舞鶴幼稚園を学院内組織に組み入れたことにより、現在の学院の基盤ができあがった。

その後、大学の学部・学科や大学院の研究科の充実、中学校・高等学校の男女共学化及び一貫教育の実施等を経て、2010年に小学校を開設し、現在の学院組織が完成した。

創業者 C.K.ドージャーの教育理念は「キリスト教に基づく人格教育」であり、その遺訓である“Seinan, Be True to Christ - 西南よ、キリストに忠実なれ-”は、「建学の精神」として現在に継承されている。

1999年3月には、建学の精神を踏まえて、「西南学院の使命」を「学校法人西南学院は、「キリストに忠実なれ」の建学の精神に基づいて、真理の探求および優れた人格の形成に励み、地域社会および国際社会に奉仕する創造的な人を育てることを使命とする。」と定義した。

また、2014年12月には、今後も建学の精神を守り、さらに発展し続けるために「西南学院ビジョン 2016-2025」(P2 図1 参照)を策定した。これは、2016年5月の創立100周年にあたり、現代の視点で建学の精神を見つめ直すことで、学院の全構成員が一つの将来像に向かって共通の目標を持ち、創立100周年以降も進み続けようとするものである。

さらに、2015年12月には、ビジョンを具現化するため、各学校・園・保育所において検討を重ね、「中長期計画 2016-2025」を策定した。策定においては、学院が擁する保育所、幼稚園、小学校、中学校・高等学校及び大学のすべてにわたって、一人ひとりを大切にされた保育・教育を続けるため、「ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題」と「アクションプラン」を議論し、精査したものを取りまとめた。

「中長期計画 2016-2025」は前半5年を前期中期計画、後半5年を後期中期計画と位置づけており、2020年度をもって「中長期計画 2016-2025」のうち前期中期計画を終了することとなる。2021年度からの後期中期計画を迎えるにあたり、各学校・園・保育所では前期中期計画の振り返りを踏まえ、改めて後期中期計画において取り組むべき課題を洗い出し、具体的に取り組む内容をアクションプランとして再設定した。

本事業計画書は建学の精神から現場業務まで繋がる一貫性(P2 図2参照)のもとに、上述の「建学の精神」、「西南学院の使命」、「西南学院ビジョン 2016-2025」、「中長期計画 2016-2025」に続き、「2024年度事業計画」を計画書として取りまとめたものである。

図1 「西南学院ビジョン 2016-2025」



人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

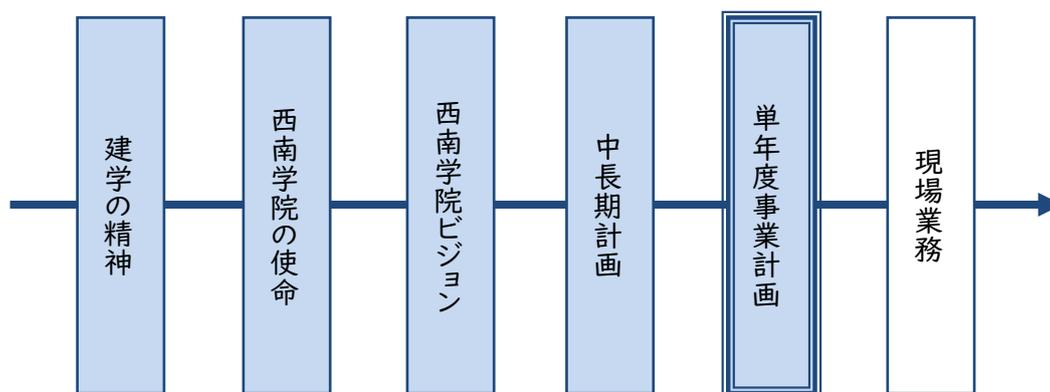
教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

国際感覚:異文化を受容し、行動できる国際性の修得

地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

図2 建学の精神から現場業務まで繋がる一貫性



I. 学校法人西南学院事業計画

1. 人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
西南学院およびバプテスト派関連資料の 調査研究・保存活動の推進	「西南学院バプテスト資料室」の在り方に関する答申書に基づき、学院史資料センターにおいて資料の収集・整理を行うとともに、調査結果の自校教育への反映について検討する。

<2024 年度事業計画>

- ・バプテスト派関連資料の収集及び調査研究を実施する。
- ・収集した資料については、2023 年 5 月に開設した「バプテスト資料室」に保存する。

2. 教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学院全体の ICT 環境の整備	(1)事務システム(事務用 PC、サーバ等)の更新を行う。
	(2)各学校・園・保育所の状況に即したポータル・グループウェアの更新を行う。
	(3)各学校・園・保育所の状況に即した働き方の変化に伴う情報インフラ整備に関する検討と整備を行う。

<2024 年度事業計画>

- (1)2020 年度に実施した事務システム更新以降に確認した事務システム更新の検討事項(各部署から提出された DX¹化事業の要望も含む)について、実現可能かどうか情報収集や調査を行う。新しい技術や製品などの各種ソリューションの情報を収集する。更新対象となる機器やソフトウェアの範囲と更新時期を確定する。
- (2)2020 年度の導入時以降に確認したポータル・グループウェアの課題について、解決できるかどうか情報収集や調査を行うにあたり、事務局の DX 化事業として、2024 年度に本格導入される Microsoft365 と現在使用しているポータル・グループウェアを比較検討し Microsoft365 へ移行できるかどうか調査を行う。また、新しい技術やパッケージ製品、オープンソースのシステムなど、様々な角度からソフトウェアの調査を行う。
- (3)事務局の DX 化事業として、Microsoft365 導入、チャットボットの利用拡大を引き続き推進する。
なお、2024 年度に本格導入される Microsoft365 については、2023 年度に実施した既存業務を Microsoft365 に適用させるモデルケース事業から得た技術を横展開し、各部署主体の Microsoft365 を用いた業務改善を促進・支援する。

¹ DX…Digital Transformation の略。企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

3. 国際感覚:異文化を受容し、行動できる国際性の修得

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
多様性への理解とその受容に関する各学校・園・保育所における取組みの整理と情報共有	各学校・園・保育所におけるダイバーシティ&インクルージョン推進に関する取組みの集約と情報共有を行い、さらに課題抽出と改善に向けた検討を行うとともに改善に向けた方策を実施する。

<2024 年度事業計画>

2023年度に設置した「西南学院ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン推進委員会」を定期的で開催し、西南学院全体の DE&I²の推進に向けた取組事項の検討を行うとともに、学院全体のDE&Iの推進並びに意識醸成・情報共有を行う。

4. 地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
各学校における SDGs ³ に関する取組み状況の把握と今後の推進方法に関する検討	(1)各学校及び各組織等で実施されている SDGs に関する取組みを把握し、推進する体制の在り方について検討する。
	(2)各学校及び各組織等で実施している SDGs に関する取組みについて、情報収集を行い、学内外に発信する。
	(3)各学校及び各組織等にて、SDGs に関する教育普及活動を実施する。

<2024 年度事業計画>

- (1) 引き続き、必要に応じて各学校・園の取組みの情報収集を行う。
- (2) 各学校・園・保育所の取組み状況を適宜、ホームページなどで発信する。
- (3) SDGsに関するイベントを1つ開催する。

² DE&I…ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの略。社会において多様な人材の活躍を推進するための概念を指す。国籍や性別、障がい、性自認や性的指向、言語など人それぞれの違いを受け入れて尊重すること。

³ SDGs…Sustainable Development Goals の略。「持続可能な開発目標」を指す。2015年9月国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のこと。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
行政、社会福祉協議会及び災害支援団体との連携強化	(1)地域、行政を交えた机上訓練を行い、より具体的な防災計画の作成および訓練を行う。また、各学校・園・保育所の防災計画と対策について把握し、協力体制構築に向けた検討・協議を進める。
	(2)災害ボランティアセンター設置候補地として、災害時に機能できるように整備する。

<2024 年度事業計画>

- (1) 本学院の危機管理体制の現状と問題点について洗い出し、今後検討していく方針を関係会議体に報告した上で関係規程やマニュアルなどを体系的に整理する。また、地域や行政と連携し、発災時に有機的に連携する体制を構築するために、福岡市と締結している「災害時における施設などの利用協力に関する協定」をより具体的なものに見直す協議を福岡市と行う。
- (2) 災害ボランティアセンター設置運営訓練について、関係機関と協議の上、実施可否を判断し、必要に応じて実施する。

5. 経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
各学校の同窓会や後援会との連携強化	各学校の同窓会との連携強化を行うとともに、小学校同窓会の立ち上げの支援や舞鶴幼稚園、早緑子供の園の卒業生データ管理について協議する。

<2024 年度事業計画>

- ・同窓会三専務理事会への継続的な参加や同窓会組織との共同事業(ホームカミングなど)を通して連携強化を図りながら、必要に応じて同窓会連合会との協議の場を設け、同窓会組織との相互理解を促す。
- ・小学校同窓会の設立の可能性についてあらかじめ関係者と協議を行い、設立の可能性が高まれば、他の同窓会組織との連携を促し、支援を行う。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
募金事業の推進	大学サポーターズ募金を推進する。用途に体育館、西南会館建設を加える。また、他の学校・園・保育所においては新規の募金事業の創設に向けた検討を行う。

<2024 年度事業計画>

- ・新西南会館建設が正式に承認された場合は、大学サポーターズ募金に新西南会館などを含む施設・設備充実費への用途を新設し、寄付を募る活動を展開する。
- ・2024 年度も継続して大学以外の各学校・園・保育所に対して、募金事業創設に向けた協議を行う。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
各費目の支出配分の適正化に関する検討	将来計画を考慮した上で保有資金量を試算し、収入に対する支出項目の配分を検討するとともに支出項目見直しの検討を行う。

<2024 年度事業計画>

決算時に当年度収支差額がマイナスとならないように、設置する各学校・園・保育所全体の収支差額の把握・分析などを行い、当初予算及び補正予算を編成する。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
学院全体としての広報活動の強化	各学校の広報担当者へヒアリングを行い、学院全体としての効果的な広報活動について協議する。また、舞鶴幼稚園及び早緑子供の園のホームページ充実のための支援を行う。

<2024 年度事業計画>

- ・2021 年度のヒアリング調査により確認した課題については既に対応済みであるが、2024 年度も引き続き、赤煉瓦通信の編集会議などを通して各学校・園・保育所の広報担当者と情報交換を行い、西南ファンの獲得を推進すべく広報活動を展開する。
- ・西南学院 Letter のリニューアルにより、より充実した学院のコンテンツを、より多くのステークホルダーに定期的に配信し、西南ファンの更なる獲得を目指す。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
教職協働の強化に向けた事務局人事考課制度・役職位任免制度の見直し	人事考課制度ならびに役職位任免制度を改正し、運用後の検証を行い改善を検討する。

<2024 年度事業計画>

2021 年度に改正した人事考課制度及び役職位任免制度を引き続き実施展開する。実施においては2023 年度までの実施状況を踏まえ、適宜修正を行いつつ、総括を行うための準備をする。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
教職協働の強化に向けた事務局研修制度の見直し	研修制度の抜本的な見直しを行い、改正研修制度の運用並びに検証を行う。

<2024 年度事業計画>

2021 年度に改正した研修制度を引き続き実施展開する。研修全体の制度設計は維持しながら、2023 年度までの課題を改善する形で各研修を実施する。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
迅速かつ効果的な意思決定システムの整備	(1) 法人役員・役職者に係る決裁権限を明確にする。
	(2) 稟議制度を改善する。

<2024 年度事業計画>

- (1) 学院理事会体制見直しの検証及び学校法人ガバナンス改革の動向と連動した形で、決裁権限規程の原案を作成する。
- (2) 学院理事会体制見直しの検証及び学校法人ガバナンス改革の動向と連動した形で、稟議規程改正の原案を作成する。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
学院全体の IR ⁴ 活動の推進	(1) 教学 IR を推進するための組織体制の構築と各種データの収集・整備、PDCA サイクルを実行するため各部署・会議体への啓蒙活動を推進する。
	(2) 経営 IR への取り組み事例を蓄積し、基幹業務としての経営 IR がどのような形で行われることが適切であるかを検討する。
	(3) 大学以外の各学校・園・保育所へ IR の必要性を啓蒙するための取り組みを行い、各組織のデータの収集及び整理を進める。
	(4) IR 活動を推進するための組織の拡充と IR 活動を実践する人材の育成を行う。

<2024 年度事業計画>

- (1) 2023年度に教学マネジメント委員会を中心に協議された教育に関する内部質保証サイクルの全学展開に取り組む。また、学内者へのデータ公開の効率的な展開方法について検討を進める。加えて、学部・部局などのリクエストに応じた分析作業に取り組む。
- (2) 経営 IR の活動方針策定に向けて、経営 IR の取り組み事例を蓄積し、経営に関する IR 活動の調査を行う。上記に加え、各部署の依頼を起点とし、意思決定に資するデータを Tableau (可視化ツール) を用いて作成する。
- (3) 併設校のうち、西南学院中学校・高等学校の IR 活動の必要性の確認を行う。中学校・高等学校での IR 活動の必要性の確認結果を踏まえ、今後の IR 活動の進め方などについて検討する。
- (4) IR 活動を継続的に実施するための体制を構築する。
特に複数人体制で IR 活動を推進する環境などの整備を行う。

⁴ IR : Institutional Research

Ⅱ. 西南学院早緑子供の園事業計画

1. 人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
保育理念の浸透と実践	教職員がキリスト教について学びを深めるとともに、子ども自身の尊厳を守り、子ども自身を取り巻く環境(家族や友だち、教職員など)との繋がりの大切さへの気づきを与える保育を実践する。

<2024 年度事業計画>

キリスト教保育を基軸とし 2021 年度に再編した「全体的な計画」に基づく、5つの「目指す子ども像」の年齢別具体的な姿に意識を置きながら保育を進める。その中で、全体的な計画の改編とそれに伴う指導計画の様式、内容の改編を行い、実際に保育実践に運用し、保育内容検討会において計画と実践の整合性を検証する。

2. 教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
保育の充実	日々の取組みの点検と検証を通して、保育実践の改善を図る。

<2024 年度事業計画>

新任や当該クラス(年齢)の経験が浅いクラス担任が多い体制であることから、園内研究会のテーマや進め方を再考するとともに、課題の抽出とその後の実践について、継続的に取組みを確認したり園全体でその内容を共有する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
保育者の専門性の向上	保育者の専門性向上に向けて、経験や年齢に即した研修計画の策定や実施等、PDCA サイクルの確立を行う。

<2024 年度事業計画>

1-3 年目の保育士、非常勤保育士対象の研修機会を体系的に日常の中に位置づける。実際の保育と理論、園の保育理念との一致をテーマに、経験や担当年齢、役割に沿って計画、実践する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
保護者との連携強化	家庭と保育所の連携を強化し、子育て支援の充実を図る。

<2024 年度事業計画>

園と家庭の役割を明確化し、園としての姿勢を示したうえで、必要に応じて個別に対応しながら保育所としての保育相談支援・子育て支援を実践する。その際に、園の方針を職員全員で共通認識ができるように、体制を構築する。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
西南学院大学との連携強化	西南学院大学人間科学部との保育者養成に関する協力・連携体制を整備、また、共同での実践研究やフィールドの提供を行う。

<2024 年度事業計画>

以下の取組みを通じて、西南学院大学の学生が、早緑子供の園を身近な保育現場として感じられ、またその中で、具体的な学びが子どもや保育者の実際の姿から得られることを目指す。

- ・保育実習
- ・講義に組み込まれた学生と園児の交流受入れ
- ・園行事への学生の招待や手伝いの依頼教員の研究や学生・院生の卒論や修論のための研究フィールドとして、依頼があった際には受入れながら、連携を図る。

3. 国際感覚・異文化を受容し、行動できる国際性の修得

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
異文化や多様性への興味や関心に基づく親しみの醸成	日常の中で異文化や多様性を意識するとともに、それらに触れる機会を積極的に設ける。

<2024 年度事業計画>

全体的な計画の中に、「DE&I」の視点を持った保育のねらい、配慮、内容を文章化して加え、さらに、保育の中で意識して実践ができるように、保育内容検討会において確認や話題提供を行う。

4. 地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
地域への子育て支援の強化	(1)園庭の地域開放や園行事(こどもまつり、運動会、クリスマス等)を通じ、地域住民への子育て支援の充実を図る。
	(2)地域に向けた育児講座や育児相談、各機関等からの見学受け入れを通じて子育て支援の充実を図る。

<2024 年度事業計画>

- (1)「保育園で遊ぶ会」の内容を充実し、地域の子育て支援の一環としての機能を果たすように努める。また、舞鶴幼稚園保護者への育児講座の案内、給食レシピの提供を行う。併せて、舞鶴幼稚園の地域子育て支援行事の際に、育児の助けとなる情報リーフレットを作成、配布する。
- (2)・入所に関する説明、相談会:対面とオンラインで実施する。特に入所説明会では、丁寧に対話し、保育所入所、園の保育内容について明確な案内を心がける。
 - ・育児講座:現代の子育て環境などを鑑み、テーマを決定する。舞鶴幼稚園保護者など、地域の子育て家庭にも広く参加を呼びかける。
 - ・他園、他機関からの見学:可能な範囲で受入れる。

5. 経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
安全管理・危機管理の徹底	安全管理・危機管理マニュアルの見直しとともに、防災・防犯に関する対策行動や設備・機器・備品の点検を実施する。

<2024 年度事業計画>

- ・舞鶴幼稚園と合同で、避難訓練実施(1回)
- ・緊急時マニュアルを舞鶴幼稚園とともに確認、合同避難訓練の振り返りも踏まえて、必要に応じ、修正や追記
- ・緊急持ち出し物品の定期的点検
- ・緊急時の保護者への連絡体制確認:総務課と連携
- ・防災備蓄品の種類と数を決定し、食品はローリングで消費していくように計画する
- ・避難食の提供と実食訓練実施(2-3回)

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
組織体制の整備	(1)チームワークの発揮や業務の質の向上及び効率化に向けて、役割や業務内容を整理し、現状の組織の妥当性や改善点を検討する。
	(2)保育の充実と安全な保育体制構築、経営基盤の安定化のため、クラス担任の保育士数確保に向けた方策・方針を固める。
	(3)現代の社会情勢と保育所に課せられる使命を踏まえ、保育の重要な一部である食育について、充実を図るため、給食調理員の求められる専門性と重責を鑑み、雇用条件見直しと専任化を図る。

<2024 年度事業計画>

- (1)対外的な書類:2023年度に園で作成、提出した記録の更新を行う。
園内書類:データで管理し、引き続き整理、更新を行う。
今後の事務の体制とあわせて、現行の方法や内容の見直しを行う。
- (2)・保育者数に応じた、最も効率の良い園児の年齢別人数について、常に状況に応じて検討する。
・保育者の新規獲得に努める。
- (3)・給食契約職員の雇用期限の撤廃について、優秀な人材確保と保育における給食の重要性の観点から、その必要性を整理し、検討に入る。
・食育と衛生管理の両面から、給食職員と保育室との交流や連携について検討する。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
施設・設備の整備	環境変化や老朽化を踏まえ、改修計画を策定し計画的に修繕・改修を進める。

<2024 年度事業計画>

- 全保育室の照明器具を LED に取り換える。
- その他、2025 年度以降に必要となる修繕、改修箇所を検討し、中期的計画を立てる。

Ⅲ. 西南学院舞鶴幼稚園事業計画

1. 人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
舞鶴幼稚園の保育理念(ひかりのこを目指す)の実践	自己肯定感を育み、仲間づくりを重視した保育を実践する。

<2024 年度事業計画>

- ・各学年で毎日その日の振り返り、反省を行い、また次の日の打ち合わせ、今後の計画、子どもの様子の伝え合いなどを行う。
- ・職員会議にて、各学年の子どもの姿について話し合う。

2. 教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
園内研究会の充実と研修参加の促進	園内研究会の計画的な実施、及びそれぞれの教員の自己研究・研修参加を通じて、幅広い知識や技能を身に付け、保育に生かす。

<2024 年度事業計画>

- ・様々な研修会の情報周知を進める。また、園外研修会の参加について計画し、参加する。
- ・園内研修会を充実する。研修会の内容によっては非常勤教諭も共に学ぶ機会を設ける。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
大学の各組織(学部、事務局)との連携と学生(授業、実習、卒論)の受け入れの促進	人間科学部児童教育学科の教員や学生と連携した研究、研究会、保育実習生の積極的な受け入れなどを通して、保育理論と実践の融合を図る。

<2024 年度事業計画>

- ・大学の授業との関わりを積極的に受入れる。
- ・保育実習生を積極的に受入れる。
- ・大学との連携を行う。

3. 国際感覚:異文化を受容し、行動できる国際性の修得

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
「インクルーシブ保育」の深い理解と実践	園児一人一人の違いや思いを大切に、一人の人として尊重しながら関わっていく「インクルーシブ保育」を実践する。

<2024 年度事業計画>

- ・配慮を要する子のフォロー態勢の確保と、具体的なフォローの仕方の検討を行う。
- ・インクルーシブ保育に関する研究会を企画・実施する。
- ・保護者にも懇談などを通じて園の考えを周知する。

4. 地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
子育て支援全体の見直しと発信方法の検討	Web ページの活用や広報媒体の見直しなどを通して、子育て支援に関する取組みを積極的に外部に発信する。

<2024 年度事業計画>

- ・地域の方(主に未就園児の保護者の方)に向けて特化したホームページ改修を行い、子育て支援に関する情報発信を強化する。
- ・子育て支援の内容を検討し、改善を図る。

5. 経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
災害時対応の検討	災害発生時を想定した学院との連携に基づく危機管理体制の整備を進めるとともに、地震や水害等の自然災害を想定した避難体制を整備する。

<2024 年度事業計画>

- ・火事や地震などを想定した避難訓練を年3回実施する。(うち一回は早緑子供の園との合同避難訓練とする。)
- ・具体的な災害時対応をまとめ、教職員で共有するとともに、保護者にも周知する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
教職員体制の整備	質の高い保育を維持できる教職員体制の見直しと整備を進めるとともに、事務関連業務(人事・経理関係、補助金申請等)の継続的な支援体制に関する検討と改善を行う。

<2024 年度事業計画>

- ・質の高い保育ができていくかどうかの検討を行い、常に改善を図る。
- ・副園長と事務職員の連携を強め、事務処理をスムーズに実施する。

IV. 西南学院小学校事業計画

1. 人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
様々な取組みを通じた児童・保護者へのキリスト教主義に基づく教育理念の浸透	(1)聖書教育の教科横断的な取組みの具現化、カリキュラム化を図る
	(2)・教科横断的な取組みの具現化、カリキュラム化 ・各種教育カリキュラムについての特別委員会を組織する

<2024 年度事業計画>

- (1) ・全教員対象の聖書研究会を年 5 回実施する。
 - ・保護者チャペルを年2回行う。(ミッションウィークにて)
 - ・学級担任が年 1 回聖書科授業を行う。
 - ・新任研修にて聖書の学び会を行い、キリスト教教育を行う私学人としての学びを深める。
- (2) ・職員研修を通して人権意識を育てる研修、授業実践を行う。
 - ・年 1 回以上の授業実践をする。また、実践をもとに、カリキュラムの付加修正をする。

2. 教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
教育目標具現化の手だての実践と点検	教育目標具現化に向けた PDCA サイクルの確立と実施

<2024 年度事業計画>

2024年度学年経営案をもとに、各学級の経営案を作成する。また、学年経営案の実践と点検を実施する。それぞれについて、反省と見直しを学期ごとに行う。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
児童の外国語教育に対する理解向上に向けた環境整備	(1)外国語を取り入れた授業実施に向けた教員研修会の実施
	(2)外国語教諭の複数採用

<2024 年度事業計画>

- (1) 担任も共に外国語授業に指導者として参加する体制をとる。また、外国語の研究授業を年間 3 回行い、積極的に担任も授業に関わりながら進める。
- (2) 複数の外国語教諭で進める本校独自のカリキュラムの作成の付加修正を行いながら担任もどのような形で授業に加わるのかも検討を進める。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学校全体をあげた教員の指導力向上	研修における PDCA サイクルを構築するとともに、研修や研究等を通じて習得した知識や技能を教員間で共有する体制を整備する。

<2024 年度事業計画>

研修や研究などを通じて習得した知識や技能を教員間で共有する体制を整備するため、以下の3点を実施する。

- ・年3回以上の授業力向上についての研修の設定
- ・指導方法を共有するための研修や模擬授業の場の設定
- ・先進校の視察

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
ICT 環境の整備と活用	(1)タブレット等端末及び校内ネットワーク環境の整備の実施
	(2)ICT を活用した授業実施に向けた教員研修会の実施

<2024 年度事業計画>

- (1) ・タブレット端末は 2024 年度以降も学校側が準備し、児童に貸与する方針を継続する。
 - ・体育館や運動場への Wi-Fi 環境の調査を行い、導入を検討する。
- (2) ・ICT 教員研修会を年3回実施する。また、その研修を生かした授業研究会を年3回実施する。
 - ・年間カリキュラムに「デジタル・シティズンシップ教育」の題材を各学年年3回は行えるように配置し、実施する。

3. 国際感覚:異文化を受容し、行動できる国際性の修得

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
異文化や多様性に触れる機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生(大学別科)との交流を定期的に行う ・外国語、各教科における留学生交流の具体的計画 ・大学との連携の仕方について協議する(留学生側の授業化など)

<2024 年度事業計画>

- ・年3回の留学生との交流活動を実施する。さらに、国際感覚に精通した外部講師による研修や授業を行う。
- ・ウイングツアーで海外へ行くことを踏まえ、現地の小学校での交流を想定した授業を行う。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
行事の目的と教育的価値の検証と改善	現在行われている行事の評価及び改善や見直し(代替、廃止)の実施

<2024 年度事業計画>

現在実施している各行事の精選、改善及び見直しを行う。

4. 地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
地域の自治協議会等と連携してのボランティア活動の実施	地域と連携しての活動や運動の計画の策定と実施

<2024 年度事業計画>

地域と連携しての活動、運動の計画策定と実施に向けて、これまで同様、百道浜交通安全推進委員会などの活動への参加及び実施を行う。

5. 経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
志願者の安定的獲得に向けた広報強化	広報活動の組織化と広報活動の計画の策定と実施

<2024 年度事業計画>

広報部を中心にパンフレット作製をはじめ、リーフレット、SNS などを利用した広報活動を実施する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
小中高教職員の交流、連携強化	小中高の連携強化のための計画策定と実施

<2024 年度事業計画>

- ・小中高連携についての 2023 年度の検証を4月までに行い、活動計画を5月までに策定する。また、活動計画に沿って、計画を実施する。
- ・保幼小による学習会を実施する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
各学校・園・保育所との交流基盤の整備	各学校、園、保育所との交流の計画策定と実施

<2024 年度事業計画>

各学校・園・保育所との交流計画とその実績の検証を行い、交流計画(修正版)を 5 月に策定する。策定後、新たな交流計画に沿って交流活動を実施する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学校の改善向上のための学校評価の実施とアドバイザーボードの設置	・児童と保護者への学校評価の実施とフィードバック ・アドバイザーボードの設置

<2024 年度事業計画>

- ・2024 年度の学校評価をオンラインを通して、年2回実施する。また、学校評価を受けての改善事項を検討する。
- ・学校評価項目・アドバイザーボードのあり方についても検討を行う。

V. 西南学院中学校・高等学校事業計画

1. 人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
チャペルやミッション・ウィークを活用した「いのち」を大切にす教育や「人権教育」の充実、また、「いじめ」防止に向けた教育プログラムの充実	(1)チャペル講話やミッション・ウィークを活用した「いのち」を大切にす教育の充実
	(2)人権・「同和」教育特設ホームルームをはじめとする「人権教育」の充実
	(3)「いじめ」防止に向けた教育プログラムの充実

<2024 年度事業計画>

- (1)チャペルやミッション・ウィークを通じて、自他に与えられたいのちの尊さを深く理解する機会を設け、さらなる内容の充実を図る。
- (2)人権・「同和」教育特設ホームルームでの講演や視聴覚教材による授業等を通じて啓発活動を継続し、さらなる内容の充実を図る。
- (3)各種講演や授業、「いじめ」アンケートの実施と振り返り等を通じて啓発活動を継続し、さらなる内容の充実を図る。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
生徒が主体的に企画・運営するチャペル企画やボランティア活動の充実	路上生活者や生活困窮者への支援物資受付等、ボランティア活動の充実、日本 YWCA 全国カンファレンス等への参加

<2024 年度事業計画>

路上生活者や生活困窮者への支援物資受付等、生徒が主体的に企画するボランティア活動を継続し、さらなる内容の充実を図る。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
生徒に対するサーバントリーダー育成のための教育プログラムの充実	校内・校外での「クリスマス募金」や「震災忘れない募金」等の展開

<2024 年度事業計画>

校内外で実施する「クリスマス募金」や「震災忘れない募金」活動を通じて、生徒が他者に仕え、配慮しながら行動することの実践機会を設ける。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
交流プログラムによる平和学習の充実	中学 3 年沖縄修学旅行や韓国への(からの)旅等による平和学習の充実

<2024 年度事業計画>

生徒と共に行う事前学習プログラムのさらなる充実を図り、韓国から迎える中・高生たちとの交流活動を通じた平和学習を継続する。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
地域の教会や他のキリスト教主義学校との連携によるプログラムの充実	地域教会やキリスト教主義学校等との連携活動

<2024 年度事業計画>

従来と同様に、地域の教会の牧師や他のキリスト教学校の教員などにチャペル講師を依頼し、さらなる内容の充実を図る。また、他校やキリスト教事業体との協力による企画展の実施を検討する。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
外部講師による講演会やチャペル講話の充実・強化	外部講師の招聘による啓発機会の創設

<2024 年度事業計画>

積極的に社会の諸方面で多彩な活動しておられる方を招き、様々な新しい見解や知見に接する機会を増やす。

2. 教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
カリキュラムの整備と教科教育の充実 (カリキュラム・教科教育)	各教科の新教育課程における教育内容の充実のため、教科会議の充実を図るとともに、より良い教育課程の実現のため、「教育課程 R&D ワーキンググループ(仮称)」を設置し、教育課程の検討や教務規程の見直しを行う。

<2024 年度事業計画>

中学・高校ともに新学習指導要領に対応して編成されたカリキュラムを計画的に実践する。さらには、中学・高校の各教科において移行後の教育内容を検証し、教育内容のさらなる充実に向けた検討を行う。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
英語教育のさらなる充実	(1)英語教育の検証と改善案の策定及び大学入試改革に対応したカリキュラムの検討と改善
	(2)英語外部検定試験に対応した英語教育プログラムの充実と生徒が CBT ⁵ に対応するための環境の整備を推進する。

<2024 年度事業計画>

- (1)オンライン英会話授業の運用状況と効果測定について、英語科を中心に検証し、必要に応じて運用計画の見直しを行う。また、生徒の更なる語学力向上に反映させるための方策について検討する。
- (2)英語外部検定試験(GTEC)を計画的に実施し、実施後の検証を行うとともに、英語外部検定試験の導入と活用に基づく入試制度についての情報収集と分析を継続する。

⁵ CBT…Computer-based Testing (パソコンを用いて行われる試験)

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
・キリスト教理念に基づいた進路指導の実現（一貫生については中高6年間を通じての一貫したキリスト教理念に基づいた進路指導のあり方の構築）	(1)キャリア教育（進路指導）体制および手法の見直し
・多様化する大学入試に対する適切な情報提供と各学年において磨いていくべき資質・能力に関する指導	(2)高大接続および高大連携の課題に対応した進路指導の充実
・生徒の主体的な進路選択を促す取組みの強化（西南学院大学との連携した教育活動の活用） ・海外の大学への進学を希望する生徒への進路指導の充実	(3)海外大学進学への支援体制の構築

<2024 年度事業計画>

- (1) 中学・高校ともに、現在行っている各種進路説明会や大学説明会、2022 年度より実施されているサマーチャレンジなどを継続的に実施し、その効果を検証するとともに、キャリア教育の更なる充実に向けた今後の基本方針について検討する。
- (2) 本校と各大学の間での高大接続や高大連携の仕組みや制度について検証し、今後の進路指導における活用のあり方について検討する。また、西南学院大学との連携を通じて、中学生や高校生の主体的な進路選択を促す取組みを拡充する。
- (3) 海外進学を希望する生徒の現状やニーズを把握するとともに、進路・進学指導について、専門業者及び海外大学と連携しながら進める。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
教育支援体制の整備と充実 (教育支援)	教育支援体制の整備と充実

<2024 年度事業計画>

支援を必要とする生徒の情報を共有し、様々な支援体制の充実に向けた校内研修を行い、関係機関との連携強化に努める。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
教員研修制度の充実 (教員の資質向上)	(1)研究授業の積極的展開
	(2)研修制度の見直しと検討

<2024 年度事業計画>

- (1) 各教科を中心に、研究授業や研究発表を適宜実施して教科教育の更なる充実を図るとともに、自主的な研究発表や勉強会への支援に向けた研修を検討し、関係機関との連携強化に努める。

(2) 現行の研修実施状況を検証し、改善に向けた方策や、勤続 20 年目や 30 年目の学び直しをも見据えた新たな研修制度の創設を検討する。

3. 国際感覚・異文化を受容し、行動できる国際性の修得

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
国際交流プログラムの拡充	多様性を認め合う共生社会の形成に向けた国際交流プログラム(海外研修・留学制度)の充実

<2024 年度事業計画>

高校訪豪研修、ピース・メイキング・プログラム、インターナショナル・デイ・キャンプの実施と検証を継続するとともに、中学における海外研修プログラムおよびターム留学制度を実施する。また既存のものに加え、新たな研修プログラムを検討する。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
帰国生徒受け入れ制度の整備	帰国生への対応(募集拡大、教学支援の検討)

<2024 年度事業計画>

近年の帰国生徒入試結果や入学後の状況などを総合的に検証し、多様な生徒の募集を目的とした受験資格や条件緩和のあり方について検討する。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
留学生受け入れ制度の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・海外からの留学生の受け入れに関する支援体制や制度の充実 ・留学生の受け入れに関して、留学斡旋団体とのやりとりや留学生のケアを専門で担当する職員(または部署)を置き、より多くの留学生を招くことを可能にする。 ・留学生の授業参加の仕方を見直し、留学生が一般の生徒と同様に実際の学びができるように受け入れ状態を整える。 (留学生+希望生徒による英語によるディスカッション形式の授業などの設定)

<2024 年度事業計画>

受入クラスの割当や具体的な支援体制など、海外からの留学生受入に際してのルールを策定し、校内制度としての明文化を検討する。

4. 地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
ボランティア活動やイベント等の地域貢献 活動・地域福祉活動の充実	(1)街頭募金、震災忘れない募金、社会福祉施設訪問の継続 キリスト教学校フェア等、他校と協力して実施する活動を通 じて、キリスト教主義の学校として地域社会に貢献する。
	(2)生徒会による選挙公報活動や地下鉄乗車マナーアップ キャンペーンへの協力
	(3)地域の小学生や保護者を対象とした理科実験体験等の 機会提供のほか、出前授業や体験学習、PTA 学校訪問等 を小・中学生へのキャリア教育に貢献できる取組みとして 実施する。

<2024 年度事業計画>

- (1)クリスマスや震災復興支援の街頭募金、社会福祉施設訪問、地域住民対象のコミュニティークリスマス
実施など、現在の取組みを今後も継続する。
- (2)生徒会による選挙公報活動や地下鉄乗車マナーアップキャンペーン活動への協力、被災地支援活動
を今後も継続するとともに、地域からの意見や要望を収集するための方策について検討する。
- (3)本校からの出前授業や中学生の体験入学、PTA 学校訪問の受入等、小・中学生や地域住民・保護者
への情報提供を目的とした活動を今後も継続するとともに、参加者の意見や要望を収集するための方
策について検討する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
地域との連携 (地域住民との連携)	(1)災害発生時の避難場所提供等の防災協力体制の充実
	(2)百道浜自治協議会との連携強化

<2024 年度事業計画>

- (1)本校近隣の地域住民に向けた防災協力体制(防犯対策や交通安全対策を含む)や具体的内容、情
報共有のあり方について継続して検討する。
- (2)地域との連携に向け、自治協議会関係者との情報交換や懇談、地域住民からの意見や要望を収集す
るための方策について検討する。

5. 経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
安定した財政基盤の構築	安定した財政基盤の構築に向けた財政計画の策定

<2024 年度事業計画>

教職員を対象に、本校ならびに学院全体の財政状況や財務上の課題について理解を深め、年間の教育
活動計画に沿った予算編成方針について周知する機会を設ける。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
部活動のあり方の見直し	課外活動(部活動)のあり方を検討・改善による教員の負担軽減に向けた取組みの実施

<2024 年度事業計画>

課外活動に費やす指導時間や指導日数を削減することを目的として、各教員の課外活動計画を見直す。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
校内業務の効率化	ICT 化を推進し、校内業務の効率化を進め、負担軽減を図る。

<2024 年度事業計画>

教員の出退勤管理について、現行のパッケージシステムの運用の問題点を検証し、より確実に効率的な管理の方法を検討する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
運営管理体制の充実	(1)様々な課題の解決に向けた委員会等の設置や既存の会議の整理等、組織体制の見直し
	(2)危機管理体制(災害対応・施設強化を含む)の充実・強化
	(3)校友行政の強化・同窓会との協力関係強化
	(4)後援会との協力関係強化(情報提供のさらなる充実、専用ホームページの検討)

<2024 年度事業計画>

- (1)現在の各委員会や会議体が抱える問題点や課題、懸案事項を抽出・分析し、課題解決に導くための具体的な方策を検討する。
- (2)危機管理マニュアルの整備や防災備蓄計画についての検討を継続する。
- (3)学校から同窓生への情報提供のあり方について、校長、副校長、教頭、事務長が中心となって、同窓会役員との協議の場を設ける。
- (4)学校から保護者への情報提供のあり方について、校長、副校長、教頭、事務長が中心となって、後援会役員との協議の場を設ける。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
広報活動の充実 (広報活動)	中学校・高等学校全体のブランディング・広報戦略の充実・強化

<2024 年度事業計画>

学校ホームページのリニューアルを実施する。

VI. 西南学院大学事業計画

I. 人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
自校史教育「西南学院史」の充実	「西南学院史」の位置付け、講義内容、運営体制等について検討する。

<2024 年度事業計画>

- ・2024 年度後期に「西南学院史」講義を実施する。
- ・2025 年度の講義内容について、受講生アンケートや答申書をもとに、学院史講義運営委員会で検討を行う。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
共生社会に生きるマインドの育成	貧困、障がい、差別等、共生社会を実現するための課題に出会うプログラムを提供する。

<2024 年度事業計画>

過年度のアンケート結果を検証して、以下のプログラムの改善を図る。

- ①被災地支援
- ②障がい者支援講座
- ③学習支援(子ども食堂含む)
- ④海外ボランティア(外部団体補助金支給プログラム)
- ⑤海外ボランティア・ワークキャンプ(貧困問題などの取組)
- ⑥ベイラー大学交流ボランティア(貧困問題などの取組)

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
学院全体のボランティア活動活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生が主となり、ボランティアを通して学院の各学校と直接的・間接的に交流する。 ・大学生が小学校・中学校・高等学校で発表する機会を定着化する(チャペルなど)。

<2024 年度事業計画>

- ・西南学院小学校、西南学院中学校、高等学校いずれかのチャペルにて、本学の学生のボランティア活動を発表する機会を設ける。
- ・各学校・園・保育所のニーズに応じて、本学の学生が参加できるイベントなどへ参加する。(小学校ネイバーキャンプ、学習支援など)

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
多様性の理解並びに障がい者支援に関する姿勢及び能力の育成	多様な学生の受け入れと学生の意識の醸成に向けた支援環境を整備する。

<2024 年度事業計画>

大学DE&I推進検討委員会が提出した答申に沿って、2026 年 4 月の西南学院大学学生支援センター(仮称)の設置に向け、検討を開始する。

2. 教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
本学におけるアカデミックスキル(≒スタディスキル)の定義付け、育成方法の検討	(1)本学における入学前教育、初年次教育、リメディアル教育 ⁶ について、それぞれの定義、実施方針、効果について検証し、各教育の実施方法を具体的に検討する。
	(2)スタディスキルに関する新たな科目あるいはプログラムの開設と運営に係る教員等の配置および共通テキストや共通コンテンツの開発を行う。
	(3)スタディスキルを含む学部教育等の全学的な学修支援のため、コーディネーターや SA・TA ⁷ を配備した支援体制(例:ラーニングサポートセンター等の設置)を検討する。

<2024 年度事業計画>

- (1) 入学前教育については、2023 年度後期より検討に着手した 2024 年度(2025 年度入学者対象)以降の全学的なあり方について、引き続き検討を行う。初年次教育については、2023 年度より共通科目内に新設した基幹科目(スタディスキル科目、データサイエンス科目など)の実施状況を踏まえ、必要に応じて、各学部・学科が実施する基礎的な科目内容との調整などについて検討を行う。リメディアル教育については、入学前教育及び初年次教育の実施状況を踏まえ、本学における補習・補充教育のあり方及びその実施体制について検討を行う。
- (2) 2023 年度に新設したスタディスキル科目(「スタディスキル I (基礎・学びの基本)」及び「スタディスキル II (応用・対話と表現)」)について、初年度の実施状況や各学部・学科への意見聴取結果も踏まえた授業実施を行うとともに、各学部・学科の演習など担当者を通じたスタディスキルの定着度に関する調査を行う。
- (3) 2023 年度に設置したラーニングサポートセンターにおいて、引き続きスタディスキル科目の実施運営を行うとともに、センター教員の指導の下、ラーニングサポートデスクを通じて、SA・TAによる学修支援を行うラーニングサポートデスクについては、2023年度の運営状況を検証のうえ、更なる利用促進に向けた施策を検討する。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
情報教育科目の見直し	数理・データサイエンス・AI を扱う情報科目を開設し、科目提供体制を構築する。

<2024 年度事業計画>

2023 年度より開講したデータサイエンス科目(データリテラシー、データサイエンス基礎(データ分析)、データサイエンス基礎(AI 活用))については、2023 年度の実績や受講生へのアンケート結果、自己点検・評価結果を基に授業を実施する。2024 年度よりデロイトトーマツと協同でデータサイエンス実践を開講する。また、データサイエンス科目の履修者を増やすための取組みを行う。

⁶ リメディアル教育…大学教育を受けるために必要な基礎学力を補うために行われる補習教育

⁷ SA・TA…スチューデント・アシスタント、ティーチング・アシスタント

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
正課科目としてのキャリア教育科目の開講	キャリア教育科目の内容、開講方法、教員の任用基準、教員組織及び科目の検証体制を検討する。

<2024 年度事業計画>

「ライフデザイン基礎」科目は、前期 6 クラス、後期 4 クラスの合計 10 クラスを開講し、履修者の増加を目指す。そのために各学部・学科による新入生対象の履修指導において、履修登録を強く推奨する。そして 2024 年度の履修登録状況を踏まえ、一定程度の履修者数の確認及び当該授業科目の受講を通じた学修の成果が再確認された後、選択必修化あるいは必修化に向けて具体的な検討を進める。また、2024 年度は新たに 2 年生を対象に「ライフデザイン応用」科目を前期 1 クラス、後期 1 クラスの合計 2 クラスを開講する。科目開講後は、履修状況及び授業内容に関する検証及び見直しを行う。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
インターンシップの更なる充実と単位化検討	関東圏企業へのインターンシップの実施に向けて、プログラム内容及び実施方法を検討する。併せて、経済同友会実施の長期インターンシップ加盟に向けて、加盟条件となっているインターンシップの単位認定化を検討する。

<2024 年度事業計画>

関東圏企業へのインターンシップの実施方法やプログラムの内容及び経済同友会インターンシップ協会への加盟について検討を行うとともに 今後の方向性について協議を行う。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
外国語教育の検証と充実	「英語+1 言語」のもと第 2 外国語においてコミュニケーションが取れるように、日常的シチュエーションにおける運用能力（初級レベル）が身につくための取組みと、多文化社会に対応するため複数言語を継続的に学習していくための学習意義を設定する。

<2024 年度事業計画>

2023 年度に引き続き、各言語の初級レベルの運用能力の修得に向け、以下の項目を実施する。

- ①ワールドカフェや語学ラボを通じて、第 2 外国語による初歩的な会話の実践の場を提供する。
- ②語学検定試験受験者の増加策として語学担当教員と連携するなど、あらゆる機会を利用して、受験料補助制度を学生に広く周知する。
- ③メディア学習室の利用促進を図る。
- ④2023 年度の各種取り組みを検証のうえ、更なる受験者増や利用促進に向けた施策を検討する。
- ⑤初級科目における到達目標のシラバスへの記載は完了した。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
<p>・「学修者本位のカリキュラム」「単位制度を実質化するカリキュラム」「責任をもって授業科目を提供するカリキュラム」への転換</p> <p>・教学マネジメント指針に準じた学修環境の整備</p>	(1)各学科において3つのポリシーの見直しを行い、新たに定めた各ポリシーを踏まえ、カリキュラムマップ ⁸ 、カリキュラムツリー ⁹ 、履修モデルを作成する。さらに、同ポリシーに沿って教育課程の見直しを進め、ディプロマ・ポリシーに合致した授業科目の整備を進める。(関連科目の解消含む)
	(2)各学部における加配教員数を踏まえ、各学部が貢献すべき共通教育に係る担当コマ数を目標値(目安)として設定し、各学部が共通教育への貢献度を高めることを目指す。
	(3)全体のカリキュラムマネジメントや教員組織編制に係る検討、調整、検証等の全学的機能を担う組織体制を構築する。
	(4)学修成果の可視化のために、成績評価基準割合(目安)および科目ルーブリック ¹⁰ を導入し、成績評価の平準化を図る。科目ルーブリックにおいてディプロマの観点別評価も採用し、学生別にその達成度を可視化するとともに、GPAの規準を用いて成績分布等の検証を行う。
	(5)教育活動に係るデータを収集・蓄積したポートフォリオ ¹¹ の構築を通じて、学生の成長や教育成果を可視化し、学生、教職員双方がそれらを把握できる環境を整備する。また、教学IRを推進し、学生のディプロマ・ポリシー達成度やカリキュラムの妥当性の検証及び改正等を推進するための根拠データとして蓄積したデータを活用する。
	(6)メディアを活用した授業(オンライン授業、eラーニング)等の併用により事前の学習(反転学習)や事後の学習(復習)に係る時間を十分に確保できるような授業運営への転換を図る。
	(7)ディプロマ・ポリシーの「C:総合的な学修経験・創造性」を推し進めるために、PBL ¹² やディスカッション等の手法を盛り込んだアクティブラーニング(AL)を正課科目や関連する正課外科目に積極的に導入する。
	(8)カリキュラム改革や授業運営方法の改善等、全学的共有と展開を進める。

<2024年度事業計画>

- (1) 2023年度からの新しい3つのポリシー及び新たに策定した各種オーガナイザー¹³(カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、ナンバリング及び履修モデル)に基づき、授業を実施する。また、アセスメント・ポリシーを踏まえ、各種アセスメントの分析結果などを通じて、学生の学修成果の把握に努める。

⁸ カリキュラムマップ…授業科目とディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーとの関係を示した表

⁹ カリキュラムツリー…カリキュラムの年次進行、授業科目間のつながりなど、カリキュラムの体系性を図で表したもの

¹⁰ ルーブリック…「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論であり、学生が何を学習するのかを示す評価基準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示した評価指標

¹¹ ポートフォリオ…学修ポートフォリオ。学生の学修過程並びに各種の学修成果を長期にわたって収集し、記録したもの。

¹² PBL…Project Based Learningの略

¹³ オーガナイザー…カリキュラムの体系性や順次性などを整理するための各種資料。

なお、現状においては、DP に示す資質・能力の修得度の指標が設定されていないことから、同指標の設定について検討を進める。

- (2) 2023 年度からの新カリキュラムにおける各学部の共通教育への貢献度を把握する。また、貢献度の向上に向けた施策や共通教育の運営に係る教員組織の考え方について検討を行う。
- (3) 共通教育委員会の発展的解消並びに教務部会議の審議事項及び構成員の見直しを適用することで、共通教育を含む全学的なカリキュラムマネジメントに際し、実施方針策定から同方針に基づく実施運営に至るまで一貫性をもって遂行する。また、当該体制下において、1 クラスあたりの学生数の考え方などの全学的なカリキュラムマネジメントや、教員組織の編制方針に基づく各学部の具体的な教員組織編制の考え方などの策定に着手する。
- (4) 2023 年度に引き続き、科目ルーブリックを用いた DP 観点別評価を通じて、学生の学修成果の可視化を行う。また、成績評価の客観性や厳格性の担保を目的として、成績評価における判定水準や成績評価分布の目安に係る考え方について検討を行う。
- (5) 2023 年度より稼働を開始した学修ポートフォリオについて、運用状況を検証のうえ、必要な機能改修や利用促進に向けた施策の検討を行う。また、学修ポートフォリオに蓄積されるデータを含め、各種アセスメントを通じて得られたデータについて、IR による分析結果などを活用した教育活動の改善に繋げるための内部質保証サイクルの構築を進める。
- (6) シラバスに明示された事前・事後学習の時間に照らし、その実態を学修に関するアンケートなどを通じて把握するとともに、LMS (Moodle) を活用した事前・事後学習の機会などを用いられるよう、教学マネジメント委員会を通じて推奨する。また、事前・事後学習の時間確保がなされている科目があれば、その方法などを好事例として情報提供する。
- (7) 教育推進プログラムを活用した各学部・学科の各種取組及び学生創発プロジェクト、福岡未来創造プラットフォームの各種事業を通じて、AL¹⁴の機会を提供する。また、AL を効果的に実践している科目があれば、好事例として抽出し、それらの手法について、FD の機会などを通じて情報提供を行う。
- (8) 全学的な FD 活動の一環として、西南フォーラムの実施を通じて、教育内容や方法、制度を改善するための考え方、具体的な方策の修得や本学における取組、実践などについて教職員、学生を交えた情報交換の機会を設ける。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学生自身による定期的な活動の振り返り (成長実感の把握)と課題の確認	学生の活動履歴データ(学修ポートフォリオ)に基づく学生指導及び相談を行う仕組みの構築

<2024 年度事業計画>

長期欠席面談や休学面談時には、ポートフォリオに蓄積された情報を確認し、指導・助言を行う。

¹⁴ AL…Active Learning の略

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
既存の枠組みにとらわれない柔軟な教育活動の実現に向けた検討	学部(学科)を横断した教育プログラムに関する調査と検討を行う。

<2024 年度事業計画>

近年の法改正により設置が可能となった、従来の枠組みを超えた組織(学部等連携課程など)の他大学事例について調査を進め、適宜執行部や会議体へ情報提供を行う。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
教育研究組織の編成に関する検討	社会のニーズに関する情報収集と学部(学科)や研究科等の在り方に関する検討を行う。

<2024 年度事業計画>

2023 年度の教育課程の見直しに伴い、教育支援事務組織の適切なあり方を検討し、組織改編を行う。
また、政策や法令等の改正に係る動向を適宜確認し、執行部への情報提供を行う。加えて、現在進行中の案件を含め、学部や研究科の改組及び収容定員変更などの検討を継続して支援する。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
本学の教育内容の変化や社会情勢の変化を踏まえた ICT 環境の整備	(1)教育内容の改定や ICT 環境を踏まえた次期 SAINS ¹⁵ (教育・研究用の ICT 環境)の更新計画を策定し、実行する。
	(2)学生のパソコン必携化に向けて学内環境を整備し、支援体制を構築する。

<2024 年度事業計画>

- (1) 2023 年度の SAINS 更新委員会で策定した仕様(無線 LAN の強化など)を満たすよう、詳細な設計、構成を確定する。確定した設計・構成に基づき SAINS 更新を遅延なく実施し、更新前後で利用者に不便がないように調整を行う。
- (2) 学生が持参したパソコンを学内で快適に利用できるように、無線 LAN 接続エリアの拡大、接続台数の増強を行う。また、無線 LAN の利便性向上、利用促進のために接続方法の簡略化を図る。2023 年度に実施した新入生対象の無線 LAN 接続設定会を、2024 年度も引き続き開催する。学生及び教員にアンケートを実施し、BYOD¹⁶の定着度や PC の授業内外における活用状況などについて、把握する。アンケート結果も踏まえ、必携化に際し課題が確認された場合には、それら課題の解消に向けた具体的な施策を所定の会議体にて検討する。

¹⁵ SAINS…西南学院大学総合情報ネットワークシステム

¹⁶ BYOD…Bring Your Own Device の略。学生個人が自身の所有するパソコン等の機器をキャンパスに持参し授業等で利用することを指す。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
研究活動の更なる強化に向けた個人研究費での研究成果の把握および個人研究費のあり方の検討	(1)個人研究費による研究成果を集約、公開するための体制・制度を検討する。
	(2)個人研究費の執行状況と研究成果の関係を分析し、今後の個人研究費の在り方について検討する。
	(3)効果的な外部資金獲得施策を検討する。

<2024 年度事業計画>

- (1) 過去5年分の研究業績を集約し、関係会議体へ基礎資料として提供する。
- (2) 研究業績の集約に向けて、評価指標を検討する。
- (3) 科研費の更なる獲得に向けて、個別支援・申請書レビューをはじめ支援サービスの導入を検討する。(英語で作成された申請書のレビュー、2023 年度に科研費獲得した教員の申請書を希望者向けに公開するなど)

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
研究における産官学連携を推進するための体制整備	研究による産官学連携を推進するための体制整備について検討する。

<2024 年度事業計画>

民間企業や自治体から共同研究・受託研究の要請を受けた場合の主管部署及び支援体制に係る規程整備を検討する。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
学内進学者の確保による定員充足率の向上	既導入学部には、更なる入試広報を展開すると共に、未導入学部(経済・神・人間科学・国際文化)については、早期卒業制度の導入を検討してもらい、学内進学者の確保に向けて取り組む。なお、早期卒業候補者の大学院入学試験制度の内容についても併せて検証する。

<2024 年度事業計画>

内部進学者の受け入れ拡大に向けて、学部の早期卒業制度を導入している研究科(法学・経営学・外国語学、2022 年度導入の経済学・神学)については、学部との連携を強化し、利用者拡充に向けて推進する。人間科学研究科で早期卒業制度に代わる仕組みとして検討中の学部・修士5年一貫制度の導入に向け、同研究科での検討結果を踏まえつつ、大学院の内部進学者の拡大に向けて、検討を進める。開始4年目を迎える「学部生向け座談会イベント」「体験入学プログラム」については、これまでの成果と改善点を踏まえ、より充実したプログラムを提供し、内部進学者の拡充を図る。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
社会人の受け入れ拡大に向けた社会人向けプログラムの充実	各研究科・専攻別に社会人のニーズに対応した高度専門職業人養成のためのプログラム及び評価方法を検討し、学位取得に向けた制度を充実させる。

<2024 年度事業計画>

社会人の受入れ拡大に向けて、リカレント教育を支援するために、2024 年度から新たな制度として、既修得単位の認定を導入する。初年度は、認定件数や社会人学生の活用状況、認定過程における問題点や改善点を把握し、社会人が1年で修了できる制度など、社会人学生の受け入れ拡充につながるような施策を検討する。また、オンライン授業の拡充など、社会人受け入れを視野に入れた多様な授業形態を模索し、検討を進める。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
外国人留学生の受け入れ拡大に向けた外国人留学生向けプログラムの充実	博士前期課程留学生の日本語の授業科目設置及び大学院チューター制度の更なる活用を促進し、外国人留学生向け日本語教育プログラム(修士論文作成レベル)の導入を検討する。

<2024 年度事業計画>

外国人留学生の受入れ拡大に向けて、すでに運用している大学院チューター制度の更なる利用促進と制度の充実、並びに、日本語教育プログラム(研究生活に必要なアカデミックスキルの修得を目的とする)として2022 年度に新たに導入した大学院共通科目「応用日本語研究」の履修促進を図るとともに、入試説明会やその他広報において、両取り組みの周知を図る。引き続き、全学の国際推進化委員会の取り組みと歩調を合わせ、大学院の国際化を推進し、外国人留学生の受け入れ拡充を図る。

3. 国際感覚・異文化を受容し、行動できる国際性の修得

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
外国語運用能力を実践する機会の提供	(1)外国語運用能力の向上を目指す科目・課外講座の見直しと体系化を行う。
	(2)海外派遣留学希望者（語学力要件達成）のための TOEFL および IELTS の対策講座等の見直しと体系化を行う。
	(3)現状の協定校の精査、必要に応じて協定校数を拡充する。
	(4)各種国際教育プログラムを通じて参加者目標値を達成する。
	(5)協定校のオンライン授業を受講し、単位取得後に、本学の単位として認定可能とする制度を整備する。
	(6)海外の大学と共同して授業を行う体制を構築する（COIL ¹⁷ 等）。

<2024 年度事業計画>

- (1) 2023年度に引き続き、e-ラーニングシステムの利用促進と TOEIC スコア向上に向け、以下の項目を実施する。
 - ①言語教育センター外国語教員、専任教員、非常勤講師の先生方と連携し、授業での利用や紹介など、e-ラーニングシステムの利用促進を図る。
 - ②体系的に語学が学習できるよう策定した課外講座目的別のモデルコース（2023 年度内策定予定）を学生に広く周知し、受講を促進させる。
 - ③2023 年度の各種取り組みを検証のうえ、更なる利用促進やスコア向上に向けた施策を検討する。
 - ④2 年次英語の再編成については、上級英語 I 及び II を新設したことにより、完了とする。
- (2) 2023年度に引き続き、語学検定受験者数増加や語学力の向上に向け、以下の項目を実施する。
 - ①受験料補助等による受験奨励を継続して実施する。
 - ②語学ラボ等正課外プログラムや IELTS 等の課外講座との連携を継続して実施する。
 - ③2023 年度の各種取り組みを検証のうえ、更なる受験者増や語学力の向上に向けた施策を検討する。
- (3) 新規に 5 校との協定締結
NAFSA などの留学フェアへの参加や教員のネットワークなどを活用して協定校拡充を図り、2024 年度には新たに 5 大学との新規協定締結を目指す。
2023 年度末の協定校数（学生交換協定）：95 校
- (4) コロナ禍前の規模で短期及び長期留学プログラムを実施し、参加者を募集する。留学プログラムの周知・広報は、HP、ポータルサイトに加え、SNS（Instagram）の活用を継続して効果的に行う。2023 年度に取組んだ語学力上位層へのダイレクトアプローチを言セと連携して継続して実施するなど、潜在的な派遣留学有資格者の応募を喚起する。
- (5) 海外語学研修においては、引き続きオンラインプログラムを継続実施し、その他正課における取組みは「正課教育の国際化に係る検討委員会」における議論を踏まえて検討する。
- (6) 協定校や本学教員の要望に応じてマッチングの支援を行うが、組織的な推進については、「正課教育の国際化に係る検討委員会」における議論を踏まえて検討する。

¹⁷COIL…Collaborative Online International Learning

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
受け入れ留学生の拡大	外国人対象の入試広報を強化する。

<2024 年度事業計画>

- ・2021年度にオンライン入試を本格的に導入し一定の志願者数が確保できているため海外からの出願・受験に対する広報は継続する。
- ・過去3年間の入試実績及び入学後の成績を検証し日本語学校への広報、フェア形式の説明会参加について再検討する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学部留学生支援プログラムの整備	留学生の修学支援体制を整備する。 (日本語教育の強化)

<2024 年度事業計画>

2023年度に引き続き以下の取り組みを実施する。

- ①日本語科目(日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、Ⅳ)を提供する。
*従来の授業内容を再検討し、「アカデミックな日本語を身に付ける」などの特色を持たせ授業を2023年度から実施している。
- ②日本語能力試験の受験料補助を継続して実施する。(2023年度新設)

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学部正課授業における日本人学生と別科留学生の交流・協働機会の拡充	学部正課授業における日本人学生と別科留学生との合同授業(英語開講)拡充の在り方の検討と全学的な合意形成に向けた取組を行う。

<2024 年度事業計画>

学部正課授業(英語開講及び日本語開講)を、別科生が履修できるよう国際センター委員会を通じて学部働きかけ、別科生の履修を促す(過年度からの継続)。加えて、学部学則科目として2025年度に開講するGlobal Liberal Arts科目群と留学生別科の制度設計に注力する。

1. 地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
産官学連携によるプログラムの充実	産官学連携を行う自治体・企業等の開拓及び実施体制の充実を図る。

<2024 年度事業計画>

- ・過年度実施したプログラムについて、アンケート内容から改善点などを洗い出し、2024 年度実施するプログラムの改善を図る。
- ・新たな連携先を 1 件開拓し、新たなプログラムを学生に提供する。
- ・実施プログラムについて、アンケートを実施し、2025 年度実施するプログラムの改善などにつなげる。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
公開講座の在り方に関する検討	(1)公開講座の在り方に関して調査・検証を行う。
	(2)リカレント(社会人の学び直し)に関する検討及び実施を行う。

<2024 年度事業計画>

- (1) 公開講座について、他大学などの調査を行い、本学にふさわしい公開講座のあり方を検討・検証する。調査内容などは西南コミュニティーセンター運営委員会に報告する。
 - ・2024 年度実施した公開講座参加者に対して、アンケートを実施する。
- (2) リカレント講座について、他大学などの調査を行い、本学にふさわしいリカレント講座のあり方を検討・検証する。調査内容などは西南コミュニティーセンター運営委員会に報告する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
オンライン(オンデマンドを含む)公開講座の提供	オンライン(オンデマンドを含む)公開講座の内容に関する調査・検討及び提供を行う。

<2024 年度事業計画>

オンラインによる公開講座・リカレント講座について、他大学などの調査を行い、本学にふさわしいオンライン講座のあり方を検討・検証する。調査内容などは西南コミュニティーセンター運営委員会に報告する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
福岡未来創造プラットフォーム等との連携に関する検討	福岡未来創造プラットフォームと連携した事業内容の検討及び実施を行う。

<2024 年度事業計画>

福岡未来創造プラットフォームと連携した事業を 1 件実施する。

2. 経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
翌年度繰越収支差額のマイナスの解消	各年度(体育館及び西南会館竣工年度を除く)の決算時における当年度収支差額がプラスとなる予算編成を実行する。

<2024 年度事業計画>

決算時に当年度収支差額がマイナスとならないように、第14次財政計画の当初の予定額と実績の差額の把握・分析などを行い、当初予算及び補正予算を編成する。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
志願者獲得のための広報活動強化	(1)WEBを活用した広報戦略を確立し、費用対効果の高い入試広報を実現する。
	(2)入試センターと広報・校友課が連携し、入試広報を強化する。

<2024 年度事業計画>

- (1) ・2023 年度に実施した WEB 広報の効果を費用に対する動画視聴回数や掲載サイトが資料請求シェアの中でどれくらいを占めるかなどの観点から精査しながら、さらに効果的に受験生、保護者、高校教員に訴求できる広報活動を展開する。
 - ・2024 年度は WEBDM を廃止し代わりに高校低学年への認知促進を目的として新規に進路学習サイトへの広告掲載を行う。
 - ・志願・合格・入学の観点から WEB 広報の効果を検証する手法について検討を行う。
- (2) 継続して情報共有を行い、両課の広報指針がより一致するよう取り組む。オープンキャンパス、SNS 広報について継続して協働した上で 2024 年度の広報について必要に応じて計画を変更して共同実施する。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
迅速かつ効果的な意思決定システムの整備	(1)全学的な意思決定機関(連合教授会、部長会議等)の役割・審議事項等を整理する。
	(2)大学執行部体制を整備する。

<2024 年度事業計画>

- (1) 部長会議及び連合教授会の見直しについて、改善提案の準備を行う。またその他の学内会議体についても、位置付け、構成員、審議事項などの見直しを行う。
- (2) 学長補佐が任命された場合は、実運用における検証を行う。

所在地

学校法人西南学院及び西南学院大学(大学院を含む)

〒814-8511 福岡市早良区西新六丁目2番92号 電話 092-823-3201

学校法人 <https://www.seinan-gakuin.jp/>

大 学 <https://www.seinan-gu.ac.jp/>

西南学院早緑子供の園

〒810-0053 福岡市中央区鳥飼一丁目6番5号 電話 092-761-3408

<https://www.seinan-gu.ac.jp/hoikuen/>

西南学院舞鶴幼稚園

〒810-0053 福岡市中央区鳥飼一丁目6番1号 電話 092-751-6650

<https://www.seinan-gu.ac.jp/youchien/>

西南学院小学校

〒814-8513 福岡市早良区百道浜一丁目1番2号 電話 092-841-1600

<http://es.seinan.ed.jp/>

西南学院中学校・高等学校

〒814-8512 福岡市早良区百道浜一丁目1番1号 電話 092-841-1317

<https://hs.seinan.ed.jp/>